

Oh!Me

オー!ミー

インターネットと連動した
【滋賀生活情報紙】



新毎日新聞

この情報紙は「滋賀ガイド」と提携しています

滋賀ガイド www.gaido.jp

vol.295・11月26日号 毎週木曜発行 **4面にプレゼント情報!**

●Oh!Me編集室/株式会社ヤマブラ:近江八幡市桜宮町294 TEL0748-34-8872 FAX0748-34-8927
●広告/滋賀毎日広告社:大津市打出浜3-16 TEL077-522-2603
●発行/毎日新聞大阪本社開発宣伝部:大阪市北区梅田3-4-5 発行部数:100,000部

鬼師。おどろおどろしい名称だが、お寺の建物などによく見られる「鬼瓦」を専門に作る瓦職人のことだ。建物を雨や邪気から守りたいと願う人々の心を見事な形に仕上げるプロの世界。そこには古来の技術が息づいている。

平安な日々への願いを形にする

鬼瓦は本来、屋根の先端に取り付ける瓦のこと。鬼の形相をした鬼面だけでなく鬼の顔がない飾り瓦も鬼瓦と呼ばれる。本来は雨漏りを防ぐための「役瓦」だが、建物を飾り、邪気から守る「守り神」としても大切にされてきた。



中国から伝わり、奈良時代以降、寺院はもちろん一般の建物にも使われるようになったのは、そうした人々の切なる願いがあったからこそだ。

指で触れて先人の思いを感じ取る

主な仕事は長い年月の間に傷んでしまった鬼瓦の修復。これまでに京都や滋賀



の重要文化財などの仕事に携わってきた。修復のポイントは、まず指で触って作った人の思いを感じとること。触れることでその鬼瓦がどこに重点を置いて作られたものかはもちろん、それを作った人の性格までもが伝わってくるという。先人の思いや、時代に思いをめぐらせながら修復の方法を考える。「鬼瓦は一つ一つ大きさや形が違うので、何年やっても慣れることはなく、毎回が真剣勝負です。」

高校卒業以来、大正時代創業の美濃邊鬼瓦工房の3代目として家の工房や京都で修業を積み技術を身に付けてきた経験が生きる。

経験と勘だけが頼り

鬼瓦づくりの難しさは、普通の瓦と違って厚みが一定でない点にある。土台を作って土を付けて成形、完全に乾燥させた状態にしてから窯で焼くのだが、水分の抜け方が部分ごとに異なるため、見極めが難しい。乾燥中の瓦を1日1回は確認するなど目が離せない。水分が抜けたかどうかの判断は経験と勘だけが頼りになる。40年もの経験がある美濃邊さんでも、とても難しく感じている。さらに陶器は焼き上がると縮み、瓦では13%の縮みがあるので、完成したときの大きさを考慮して図

古来の技で 日本の心を 今に伝える



素敵
な人

鬼師
みのべけいいち
美濃邊 恵一さん
(58歳・大津市在住)

面を引く必要もある。単純な意匠でない場合は特に気を遣う。焼き物を左右するのは第1に土。次に窯。腕は3番目だ。若いころは土の力に頼り過ぎて、瓦にヒビが入った失敗もあるが、最近はいい土がなくなり、技術で補わなければならないことが増えた。「窯出しを終えて無事に焼き上がった鬼瓦を見るまでは気が抜けません」。鬼師の仕事の厳しさが伝わってきた。

昔ながらの風景を後世に伝えたい

こうして愛情を込めて作られた瓦があるからこそ、長い年月がたっても建物が守られ、昔ながらの風景と人々の平

安を願う心が今に伝えられる。最近では瓦屋根のある日本らしい風景が減ってきた。

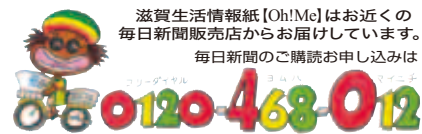
「日本人が忘れていている文化を守り伝えるのが私の役目。昔ながらの文化を引き継いでいる職人がいることを知ってほしいですね。」

風景は目から入る心の栄養。美濃邊さんは、心の奥底に響く「昔ながら風景」を後世に伝え続けたいと願っている。

(取材・澤井) 詳しくは www.gaido.jp/2951

美濃邊鬼瓦工房

●大津市比叡辻一丁目10番8号
●TEL:077-578-5333



解決は、まず電話から。 法的トラブルなら、法テラスへ。



0570-078374

〔夜間・土曜日もどうぞ〕 平日9:00~21:00 土曜日9:00~17:00 犯罪被害者支援ダイヤル 0570-079714

「法テラス」は国が設立した
公的な法人です。



<http://www.houterasu.or.jp> 法テラス 検索

